

農作業メモ



営農指導課 井口 晶平

水稲

今年の米づくりの本格的なスタートです。代かき、田植え、除草剤散布についてまとめました。

機械の状態や天気予報を確認しながら、ベストの条件での作業を目指しましょう。

代かき

水管理しやすいほ場づくり

Good

- 代かきでほ場を水平にする
- 均一な水管理ができる
- 除草剤がよく効く・傷む苗なし
- 雑草・稲の生育ムラなし
- 収量減少なし

Bad

- ほ場内で高い場所がある
 - 水分不足・風による苗の植え傷み
 - 除草剤の処理層が形成されない
 - 稲の生育遅れ・雑草が発生
 - 穂数不足・栄養不足・倒伏
 - 収量減少
- ほ場内で低い場所がある
 - 浮き苗の発生・苗の水没・とろける
 - 除草剤の薬害が出やすい
 - 稲の生育遅れ・伸びすぎ
 - 倒伏・収量減少



代かきは高低差が分かりやすいように浅水状態でを行い、稲わらや植物残渣を埋め込みましょう。

深水状態で代かきを行うと、均平が分かりづらく、ゴミが浮きやすくなります。

※エムコートなどのコーティング肥料の殻は数年で分解されますが、深水にすると殻が浮き、排水溝へ流すと詰まりの原因になります。浅水で代かきをして、稲わらと一緒に埋め込みましょう。

田植え

良い天気の日

収量を増加させるためには、初期分けつが重要です。特に稲4葉期に出る最初の分けつは、悪条件では発生しないことがあります。田植え後すぐに活着できるよう、穏やかな日に田植を心がけましょう。

Bad

- 強風・寒い日の田植え
 - 活着遅れ・植え傷み
 - 肥料吸収遅れ
 - いもち病・無効茎増加
 - 倒伏・収量減少

藻類

発生が激しい場合は対策を



↑藻の発生による除草剤の拡散不良が引き起こした薬害

○藻の発生しやすい条件

- 水の動きが小さく、深水状態
- 日照時間が長く、水温20℃以上
- 肥沃な水

○藻の対策

- 浅水管理をする
- 落水、入水をして新鮮な水を入れる
- 藻の除草剤を散布する

例) **モゲトン粒剤**: 効果は抜群。残効はないので、藻の発生時に散布する。

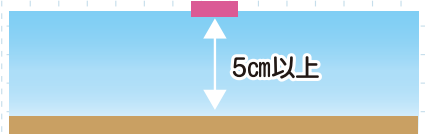
除草剤

重要なのは水管理

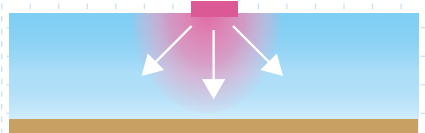
- 散布後少なくとも1週間は湛水状態
 - 水の動きは厳禁!
- 水持ち悪く、田面が露出しそうな時
 - 水尻を止めて、静かに差し水
- 水が切れて日が当たると除草剤の効果が減衰
 - 中干しまで干さないように

[ジャンボ剤の広がり方]

①ジャンボ剤散布



②水に溶けて10~15m拡散する



③約24時間で濃度が均一になる



④2~3日かけて処理層をつくる



※藻や表層はく離のない状態で散布してください。

※散布後の少しの風は、拡散に問題ありません。

